

<夢ロード川添商店街：高槻市>

“医療の街” 夢ロード川添！

～医療と子育て機能を備えた商店街！～

取組みの効果

- ◆ 約 1 万世帯の顧客化
(スタンプ会員世帯)
- ◆ 医療関係者の組合加入率
100%
- ◆ ホームページへのアクセス
約 4000 件/月
- ◆ 川添まつり (2 日間) で、
約 1 万人の来場

取組みの内容

- ◆ コミュニティ施設 (夢ホール 2 1)
の建設
- ◆ 「夢スタンプ事業」の実施
- ◆ 有料駐車場の運営
- ◆ 「川添まつり」の開催
- ◆ ホームページ「街 1 2 3 4 5」の運営
- ◆ 地域住民との街づくり事業に参加

取組みの背景

川添商店街は、高槻市南部に位置し、昭和 47 年に出店した「ダイエー富田店」を中心に南北約 360m の距離に店舗が集積して形成された「地域密着型」商店街である。

近隣には富田団地をはじめ現在 1 2 0 棟もの団地が立ち並び、近隣には小規模ながら戸建て住宅も建設されている。

しかし、ダイエーが出店した当初は、団

〈商店街データ〉

- 所在地 高槻市川添 2 丁目 3 - 1 9
- 立地 阪急京都線高槻市駅からバス約 2 0 分
最寄りバス停 富田団地中央
- 店舗数 4 8 店
- 問合せ 夢ロード川添商店街振興組合
理事長 齊賀清弘
Tel 072-692-8824 (事務局)
Fax 072-692-8800
http://www.mati12345.jp

地の入居者も若い世帯が多く、子供もたくさん入居していたが、近年は高齢化に伴い独居老人の世帯が増えている。

平成 22 年 8 月に 37 年間、川添商店街にあったダイエー富田店が撤退し、集客の核を失ったことで、商店街では集客への不安が高まったが、幸いにして直ぐにフレンドマート (平和堂) の出店が決定し、平成 23 年 11 月にオープンしたことで集客機能への大きなダメージにはならなかった。

しかし、ダイエーは衣料品も取り扱っていたが、フレンドマートは食料品や日用品の取扱いのみで、衣料品が不足することとなった。

また、川添商店街を中心に 1000m の商圏内には 11 もの食品スーパーが点在し、店舗間競争は激しい状況である。



取組みのきっかけ

平成 2 年に商店街振興組合として認可を受け、法人格を有したことをきっかけに、「商店街全体に一人でも多くの人を呼び込みたい」、その思いをコンセプトに位置づけ、大阪府の補助事業を活用し、コンサルタントの指導を受け「街づくり基本構想」を作った。

この基本構想の実現に向け商店街が一体となって取り組むこととした。

※街づくり基本構想の具体的事業内容

- ①夢ホール 21 の建設
- ②カルチャー教室の開講
- ③夢スタンプ発行
- ④駐車場運営事業
- ⑤街路灯の設置 等

活性化の要因

- ◆ 多様な利用形態が可能な夢ホール 21 の建設
- ◆ 夢スタンプ満貼台紙の特典の充実
- ◆ 立地に即した駐車場の確保と工夫した運営
- ◆ 地域との連携（防災・防犯・歩道整備）
- ◆ 各事業のつながりを持った運営
- ◆ “医療の街”としての打ち出し（商圈の拡大）



事業の仕組み

夢ロード 21 の建設に当たっては、※高度化資金を活用し、組合員の新たな負担を強いることなく建設し、組合事務所をはじめクラシックバレエやパソコン教室等の場に活用可能な部屋からお茶やお花教室として利用できる和室、料理教室が開けるパーティールーム、ステージや音響設備の整ったミニシアタールームなど多彩な部屋を用意し活用範囲を広げている。



夢スタンプは加盟店で 100 円買うごとに 1 枚進呈、300 枚で満貼となる。

夢スタンプは、毎月第 1・第 3 金曜日に買い物をするとスタンプ 2 倍となり、満貼台紙を第 2・第 4 金曜日に交換利用すると通常 500 円のところ 700 円の金券と交換になる。また、満貼になると夢スタンプ友の会に会員登録しメンバーズカードを発行、友の会になると会員番号の末尾 3 桁を対象とした、夢ちゃんナンバーズ 3 公開抽選会の対象となり、毎月第 2・第 4 火曜日に抽選会が行われ、当選者には 15,000 円の夢スタンプが進呈される。

駐車場は、ダイエーが借用していたところを駐車場規模縮小のため、土地所有者に

返還することになったので、商店街で借用し、独自の駐車場として確保した。



.....
● 駐車場にも個店の PR
● はかかしません!
.....



30 年前川添地域には祭りがなかったことから「自分たちのふるさとづくりの輪を広げる」をコンセプトに小学生が夏休みに入った最初の土・日曜日に、商店街のメイン道路に屋台や夜店、子供神輿も出る祭りを実施。また、踊り場として、駐車場を提供し、生唄の江州音頭や河内音頭にあわせた踊りも実施し、地域で活動する踊りのグループの方にも参加してもらうことで、地域の連帯感も生まれた。

安全・安心の街づくりかわぞえ歩道整備構想を掲げる地域の自治協議会に商店街組合も参加し、高齢化に向けた安全・安心の確保に地域が一体となって取り組んでいる。



.....
● かわぞえ歩道整備
● 構想により、
● 整備された歩道
● の一部
.....

“医療の街”夢ロード川添としての打ち出しは、医療関係者が商店街に医院等を構えることにより、商店街周辺団地の高齢者等は、診察のための通院と買い物が一度で済むこと、また、患者は商圈以外の遠方からの通院も見込めることから来街者の増加が図れ、地域医療と商店街の商圈拡大の一石二鳥となると考えた。

※高度化資金：中小企業でつくる協同組合や商店街の土地、建物、設備投資などに長期無利子が低利で都道府県と国が融資する制度

取組み上の工夫や苦勞

夢ホール 2 1 でカルチャー教室を新たに開く方には、はじめは部屋代を安くして教室を開きやすくし、教室の事務手続きも商店街組合事務所が担うことにより講師の負担を減らし、代わりに事務処理費として 10% の手数料をいただくことで、講師、組合双方にとってメリットがあるようにしている。また、カルチャー教室での飲食を認めているが、その飲食物は商店街組合員の店舗で購入していただくことを原則にしている。

夢スタンプの満貼台紙を、カルチャー教室の授業料 (800 円) の支払いに使用できるようにしたり、駐車場 1 時間券 3 枚 (900 円) との交換など金券としての活用以上のお値打ち感を打ち出したり、信用金庫で預金できるなど、これまで商店街での買い物に限定していた利用範囲を広げることや、締め切りなしの交換コースの設定により新規会員の獲得に努めている。また、会員登録時にメルマガ登録も合わせて行い商店街情報の提供にも努めている。さらに、夢スタンプ 2 倍デーや台紙交換金券アップデー、夢ちゃんナンバー 3 抽選会などそれぞれの実施曜日を変えることで、消費者の積極的な来街のきっかけづくりを図り、曜日によって来街者が大きく変動することのないように工夫をしている。

商店街組合員の約 20% は医療関係者で組合費以外に別途駐車場部会費を支払う

と1時間無料券を20枚配布（追加1枚100円/時間で購入可）している。周辺で駐車場の確保を考えた場合1台あたり1万2千円程必要となることから、医療関係者が組合員になることは、複数の患者が車で来院した場合の駐車場の確保につながり、また、必要以上の出費を抑えることにもなる。逆に商店街組合にとっては、駐車場の稼働率向上につながり駐車場の経営にも貢献している。

めざす商店街像（今後の展望）

今の川添商店街は品揃えが充分ではないが、振興組合設立当時の「商店街全体に一人でも多くの人を呼び込みたい」という願いを実現するため、“医療の街”川添として商圈外からの集客向上、子供向けスポーツ教室・リトミックなどの子育て支援を含めたカルチャー教室の充実、川添まつりを継続することによってふるさととして川添地域を愛してもらおうなど、地域になくはない商店街として定着するようにしたい。そして、組合としては集客努力を惜しまず、各種イベントを企画し、個店には、創意工夫を凝らして、売り上げ向上に努めてもらって商店街を活性化したい。

こぼれ話

川添まつりは約30年前に始めた祭りです、当時の子供にふるさとの祭りを感じてもらいたい。将来大人になったときに懐かしく楽しい思い出として残ってくれたらいいなという思いで、コンセプトを

設定した。

当時、祭りに参加していた子供も、今は大人になり川添地域から転出してしまった子もいるが、ふるさとの祭りと感じてくれているかはわからないが、祭りの当日には子供をつれて帰ってきて参加してくれる祭りになった。他の歴史ある祭りとは少し異なるが地域の祭りとして定着することができたと感じている。

継続することはたやすいことではないが、地域との連携や「自分たちのふるさとづくりの輪を広げる」という熱い思いによってコンセプトを実現することができた。これからも次世代へつなぐ祭りとしていきたい。

取材を通して

今回の取材では、夢スタンプ事業が一つのツールとして、川添商店街の事業である駐車場運営、カルチャー教室などとうまく関連させ、それぞれの事業に相乗効果をもたらすように工夫されていることに驚いた。

また、地域との連携やフレンドマート敷地内に掲示板を設置するなど地域や周辺店舗との共存を図る工夫もされている。



フレンドマート敷地内に設置された商店街マップ

取材に応じてくれた斉賀理事長は、事業を

するにはある程度責任を負うという意識でないと進まないといわれる。一方で、将来を見据え、後任を育てるために常に若手の組合員と一緒に事業に取り組むよう心がけているそうである。

また、理事長になって、夢ホール21のように次世代に残せるものができたことは喜びであるといわれる。

夢ロード川添は、理事長の責任感と事業を連結させる創意工夫、地域との連携により活性化に努める商店街であった。